



31 建公計第 308 号
令和元年 11 月 8 日

一般社団法人 日本建築学会
会長 竹脇 出 様

東京都建設局長
三浦 隆



「葛西臨海水族園の保存活用に関する要望書」について（回答）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より、都政全般にわたりご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、2019 年 2 月 5 日付で、貴会からいただいたご要望について回答いたします。

葛西臨海水族園は、2019（令和元）年 10 月、開園から 30 周年を迎えました。この間、5,500 万人を超える多くの方々にご来園いただきました。

現在の水族園は、この 30 年間の国内外の社会状況の変化への対応や、施設や設備の老朽化への対策の必要が生じています。

そこで都は、2017（平成 29）年、葛西臨海水族園が今後も多くの方々に親しまれる水族園として持続的に発展するためのあり方について、専門的見地から検討していただく「葛西臨海水族園のあり方検討会」（以下「検討会」という。）を設置しました。この検討会は、水族館・博物館、ランドスケープ、環境教育、広報・宣伝・観光といった各分野の有識者で構成し、2018（平成 30）年 10 月に、「海と人をつなぎ、海を守る水族園をめざして」とする報告書が取りまとめられました。これを受けて都は、2019（平成 31）年 1 月に「葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定しました。

基本構想では、新たな水族園像として「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」という新たな理念を 6 つの行動規範とともに定めました。そして、実現に向けて、水族園地内に既存施設とは別の建物を建築し水族園機能を移すことを基本に検討を行うことを明記しました。

現在、有識者等からなる「葛西臨海水族園事業計画検討会」を設置し、事業計画の策定に向け、検討を進めております。

なお、既存施設については、水族園機能を移設後、施設の状態等を調査の上、そのあり方について検討する予定です。

何卒、事情ご高察の上、ご理解賜りますようお願いいたします。

敬具